

研究課題：WEB版がんよろず相談システムの構築と活用に関する研究

課題番号：H19-がん臨床-一般-005

主任研究者：静岡県立静岡がんセンター
：山口 建

1. 本年度の研究成果

- 1) 公開中のWEB版がんよろず相談(<http://cancerqa.scchr.jp/start.php>)について、全国の医療相談担当者、研究者、患者団体などに評価を求めた。がん患者や家族の悩み・負担、一万件が静岡分類で整理され提示されている点については、医療相談担当者から全体像が把握できると高く評価された。今後の改善については30件の意見が寄せられた。ウェブサイトとしての使い勝手についての意見が多かったが、内容について、助言がいまだ少数であり、助言が文字情報中心でわかりにくいなどの意見があり、その後の助言作成に役立てた。
- 2) 機能面については、高齢者や患者がアプローチしやすい形で、トップページの構成を見直した。
- 3) がんよろず相談Q&A第3集「抗がん剤治療・放射線治療と食事」はすでに2万部を全国の医療機関、患者・家族に配布した。この冊子をひな形に、よりわかりやすく記載した書籍を出版し、永続的に、全国の患者が手に入れられるようにした。さらに、その内容をウェブサイト(<http://survivorship.jp>)で公開した。
- 4) 全国のがんに関する医療相談担当者250名が参加するフォーラムを開催し、ロールプレイにより事例検討を行い、そこでのWEB版がんよろず相談の使用について情報提供を行った。

2. 研究成果の意義及び今後の発展性

- 1) WEB版がんよろず相談は、がん患者や家族の心のケア、生活支援を目標とした内容のウェブサイトとして、我が国はもちろん、世界的に見ても例がない。がん患者や家族の相談に応じる医療相談担当者にとっては、その悩みや負担の全貌を知る唯一のツールであり、貴重なデータベースとして評価が高い。一万件の悩みや負担に対する助言は作成に時間がかかり、現在完成しているのはその一割強である。その完成によって、患者・家族が受ける恩恵は大きい。
- 2) がん患者や家族には高齢者が多く、ウェブサイトの取り扱いにはなれていない。そこで、できるだけ簡素なシステムへの改善を図りつつある。
- 3) がん患者や家族への情報提供は、WEB版がんよろず相談とともに、冊子の提供も継続して行う必要がある。「抗がん剤・放射線治療と食事のくふう」は、医師・看護師・薬剤師等の医療従事者、がん医療に携わる栄養士、患者・家族らを対象に出版された。がん患者や家族ががん医療に参加する時代の中で、彼らにとって様々な分野での指導書が必要である。本書はその第一歩となる。
- 4) がん診療連携拠点病院の医療相談担当者は相談手法に関する情報不足に悩まされている。今回行ったフォーラムでは、そのギャップを埋める努力がなされた。その全貌を伝えるビデオを全国の拠点病院に配布する予定である。全国的にこのようなフォーラムが開催されることが望ましい。

3. 倫理面への配慮

- 1) 本研究においては、患者あるいは一般市民は研究対象に該当せず、本研究によって危険性を生じる状況は想定されていない。

4. 発表論文(当該研究事業の研究成果に関するもの)

1. Yamaguchi K, et al. Cancer Patients' distresses and inquiries - proposal of four-level classification based on consultation service and questionnaire survey. *Cancer Sci.* 98:612-616, 2007.
2. Kobayashi K, Yamaguchi K, et al. Effects of socioeconomic factors and cancer survivors' worries on their quality of life (QOL) in Japan. *Psychooncology*. 2007 (in press) .
3. Hirabayashi Y, Yamashita K, et al. Factors relating to terminally ill cancer patients' willingness to continue living at home during the early phase of home care after discharge from clinical cancer centers in Japan. *Palliat Support Care*, 5:19-30, 2007.
4. Doi R, Kogire M, et al. Prognostic implication of para-aortic lymph node metastasis in resectable pancreatic cancer, *World J. Surg.*, 31: 147-154, 2007.
5. 山口 建、石川睦弓、吉田隆子、稲野利美、他、がん患者さんと家族のための抗がん剤・放射線治療と食事のくふう、女子栄養大学出版、東京、2007
6. 山口 建、振り返らずに一歩ずつーがんの社会学を实践して、日本医事新報、4336、1、2007
7. 山口 建、プライマリ・ケア医によるがん対策、治療、2008 (印刷中)
8. 山口 建、がん診療連携拠点病院とがん対策基本法、治療、2008 (印刷中)
9. 影山武司、山口 建、他、地域におけるがん検診の実態調査、治療、2008 (印刷中)
10. 山崎むつみ、山口 建、他、家庭医のためのがん情報収集法、治療、2008 (印刷中)
11. 石川睦弓、山口 建、他、患者・家族のためのがん情報収集法、治療、2008 (印刷中)
12. 堀内智子、山口 建、他、暮らしのための医療福祉サービス、治療、2008 (印刷中)
13. 福地智巴、山口 建、他、医師と患者・家族のコミュニケーション術、治療、2008 (印刷中)
14. 濃沼信夫、がん医療のコスト・パフォーマンス、月刊基金、48:3-5、2007
15. 濃沼信夫、がん医療にみる健康と経済、*Geriat.Med*、45:577-581、2007
16. 矢野篤次郎、発がん時代ー科学的根拠に基づく傾向と対策ー、東京図書出版会、2007
17. 佐々木常雄、がん患者のターミナル あなたに伝えたいエピソード 第1回 桜の木の下で、エキスパートナーズ、23、5:116-117、2007
18. 佐々木常雄、監修、抗がん剤の作用・副作用がよくわかる本：主婦と生活社、東京、2007
19. 佐々木常雄、「もう治療法はありません、三ヵ月命とってください」と医師から言われた、ベッドサイドでの一言：日本医事新報社、東京、2007
20. 大野真司、外来化学療法におけるチーム医療、*臨床外科*、62:619-625、2007
21. 片岡明美、大野真司、乳癌患者の全人的医療の实践、*日本臨床*、65:617-621、2007

22. 増田慎三、大野真司、乳癌周術期化学療法の実状およびSupportive Careの工夫、癌と化学療法、34:1609-1615、2007
23. 大野真司、乳がん患者のこころと身体を支えるチーム医療：明日から役立つ乳がんチーム医療、1-11、大野真司、笠原善郎（編）、金原出版、東京、2007
24. 長井吉清、他、病名告知のQOLへの影響、日本癌治療学会誌、42:416-416、2007
25. 井上賢一、田部井敏夫、小野亮子、進行再発乳がんの薬物療法、看護技術、53:25-27、2007
26. 小坂美智代、奥原秀盛、緩和ケア病棟における家族を対象としたサポート・グループでの語りの様相、日本がん看護学科誌、21; 14-21、2007
27. 奥原秀盛、海外がん看護事情-アイルランド・英国のがんサポート事情、がん看護、12: 454-456、2007
28. 奥原秀盛、死の受容過程理論、月刊ナーシング、27: 166-172、2007
29. 大庭章、吉川栄省、がん患者との基本的なコミュニケーション、腫瘍内科、1:317-321、2007
30. 大庭章、吉川栄省、がん患者への精神療法の実践、日本臨床、65: 123-127、2007
31. 吉川栄省、大庭章、精神症状に対する緩和ケア、外科治療、96: 942-947、2007
32. 大庭章、吉川栄省、怒りへの対応：がん医療におけるコミュニケーション・スキル、内富庸介、藤森麻衣子（編）、医学書院、2007
33. 大庭章、吉川栄省、不安への対応：がん医療におけるコミュニケーション・スキル、内富庸介、藤森麻衣子（編）、医学書院、2007
34. 田村恵美子、柿川房子、乳がん治療における生活障害を持つ患者に対する支援モデル開発に関する研究、日本医療マネジメント学会雑誌、8: 164、2007
35. 小池真規子、渋谷昌三、藤巻貴之、リラクセス感尺度作成の試みー大学生を対象としてー、目白大学心理学研究、3、2007
36. 小池真規子、家族ケアにおけるコミュニケーション、緩和ケア、10月増刊号: 36-40、2007

5. 研究組織

1. 研究者名	2. 研究課題名	3. 最終卒業学校・卒業年次・学位及び専攻科目	4. 所属施設及び現在の専門(研究実施場所)	5. 所属施設における職名
山口 建	WEB版がんよろず相談システムに関する研究	慶應義塾大学医学部 昭和49年卒 医学博士 内科学	静岡県立静岡がんセンター 腫瘍内分泌学 (所属施設同じ)	総長
濃沼 信夫	cost of cancer に関する研究	東北大学医学部 昭和50年卒 医学博士 医療管理学	東北大学 大学院 医学系研究科 (所属施設同じ)	教授
山口 直人	WEB版がんよろず相談システムで得られる情報の疫学的解析に関する研究	慶應義塾大学医学部 昭和53年卒 医学博士 疫学、公衆衛生学	東京女子医科大学 医学部 衛生学公衆衛生学(Ⅱ)教室 (所属施設同じ)	主任教授
澤田 茂樹	術後がん患者の心理的、経済的および社会的負担に関する研究	岡山大学医学部 平成2年卒 医学博士 医学	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター 呼吸器外科 (所属施設同じ)	医師
柴 光年	進行期悪性腫瘍患者の在宅医療支援に関する調査研究	千葉大学医学部 昭和50年卒 医学博士 呼吸器外科学	国保直営総合病院 君津中央病院 呼吸器外科 (所属施設同じ)	医務局長
谷尾 吉郎	合併症を有する肺がん患者のQOL	大阪大学大学院医学研究科 昭和57年 医学博士 内科学	地方独立行政法人大阪府立 病院機構大阪府立急性期・ 総合医療センター 内科 (所属施設同じ)	主任部長
矢野篤次郎	肺がん外科治療後の再発予防のための生活習慣改善支援に関する調査研究	九州大学大学院 平成元年卒 医学博士 外科学	佐賀県立病院好生館 外科 (所属施設同じ)	部長
加治 正英	胃がん患者の術前・術後のQOL向上に関する研究	金沢大学医学部 平成元年卒 医学博士 外科学	富山県立中央病院 外科 (所属施設同じ)	医長
望月 泉	消化器癌術後のQOLを向上させることを目的とした支援療法等のあり方に関する研究	東北大学医学部 昭和53年卒 医学博士 消化器外科	岩手県立中央病院 消化器外科 (所属施設同じ)	副院長兼 部長
江上 格	WEB版がん情報提供とよろず相談システム開発	日本医科大学院 昭和47年卒 医学博士 外科学	鶴巻温泉病院 診療部 (所属施設同じ)	副院長
小切 匡史	消化器がん手術後、血液がん造血幹細胞移植後のがん生存者とその家族に対する支援療法等のあり方に関する研究	京都大学医学部 昭和54年卒 医学博士 外科学	市立岸和田市民病院 消化器外科 (所属施設同じ)	副院長兼 部長

土屋 嘉昭	消化器がん治療後患者および家族に対する支援に関する調査研究	新潟大学医学部 昭和 53 年卒 医学博士 外科学	新潟県立がんセンター 新潟病院 外科 (所属施設同じ)	部長
田中屋宏爾	がんハイリスク者のカウンセリングに関する研究	岡山大学大学院 平成 5 年卒 医学博士 外科学	独立行政法人国立病院機構 岩国医療センター 外科 (所属施設同じ)	医長
謝花 正信	放射線治療治療を施行する過程でのがん患者の QOL を向上させることを目的とした支援療法等のあり方に関する研究	鳥取大学医学部 昭和 53 年卒 医学博士 放射線科	松江市立病院 放射線科 (所属施設同じ)	部長
原 信介	外来化学療法を受ける患者の QOL を向上させる支援療法のあり方に関する研究	長崎大学医学部 昭和 54 年卒 医学博士 外科学	佐世保市立総合病院 外科 (所属施設同じ)	診療部長
石田 裕二	こどもおよびその家族を中心とした家族支援に関する研究	自治医科大学医学部 平成 4 年卒 学位なし	静岡県立静岡がんセンター 小児科 (所属施設同じ)	部長
堀越 泰雄	小児がん患者の合併症の早期発見と対処方法についての研究	浜松医科大学 昭和 59 年卒 学位なし 小児科学	静岡県立こども病院 血液管理室 (所属施設同じ)	室長
佐々木常雄	がん患者の化学療法中、後における社会的、心理的支援ツールに関する調査研究	弘前大学医学部 昭和 45 年卒 医学博士 癌化学療法	東京都立駒込病院 化学療法科 (所属施設同じ)	副院長
永井 宏和	化学療法後の身体的・心理的障害に関する研究	金沢大学医学部 昭和 60 年卒 医学博士 血液内科学	独立行政法人国立病院機構 名古屋医療センター 臨床研究センター 血液・腫瘍研究部 (所属施設同じ)	部長
坂本 茂	肝癌患者の家族構成が進行度、治療成績におよぼす影響の検討	九州大学医学部 昭和 48 年卒 医学博士 内科学	飯塚病院 肝臓内科 (所属施設同じ)	副院長兼 部長
関口 勲	WEB 版がんよろず相談システムを活用した栃木県立がんセンターがん情報、相談支援センターの運営についての研究	島根医科大学 昭和 57 年卒 医学博士 婦人科腫瘍	栃木県立がんセンター 婦人科 (所属施設同じ)	副主幹兼 医長
大野 真司	乳がん患者と家族の支援ツールに関する調査研究	九州大学医学部 昭和 59 年卒 医学博士 外科学	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター 乳腺外科 (所属施設同じ)	医長

長井 吉清	病名告知の QOL への影響	東北大学大学院医学部 昭和 57 年卒 医学博士 生理学	宮城県立がんセンター 研究所 人文科学部 (所属施設同じ)	部長
細川 治	がん患者の代替医療 相談に関する研究	金沢大学医学部 昭和 50 年卒 学位なし 消化器外科学	福井県立病院 健康診断センター (所属施設同じ)	センター長
平山 功	がん外来診療における 心のケア・医療相談 に関する研究	群馬大学大学院 平成 11 年卒 医学博士 外科学 緩和医療学	群馬県立がんセンター 消化器外科 (所属施設同じ)	部長
渡辺 敏	緩和ケア病棟における、 園芸療法・音楽療法・ コラージュ療法導入に 関する研究	北海道大学医学部 昭和 50 年卒 医学博士 緩和医療学	千葉県がんセンター 緩和医療科 (所属施設同じ)	部長
坂井 隆	がん患者の QOL を向上 させるための地域連携 緩和医療の検討	三重県立大学医学部 昭和 45 年卒 医学博士 胸部外科	独立行政法人国立病院機構 三重中央医療センター 呼吸器外科 (所属施設同じ)	副院長
三橋 彰一	がん患者の QOL 向上 のための情報提供と 環境改善に関する研究	筑波大学 昭和 63 年卒 論文博士 血液内科学	茨城県立中央病院 茨城県地域がんセンター 科学療法科 (所属施設同じ)	医長
山下 浩介	がん生存者の QOL 向上 に関する研究	防衛医科大学 昭和 56 年卒 学位なし 放射線医学	医療法人社団北斗 北斗病院 診療部 在宅診療科 (所属施設同じ)	部長
須賀 昭彦	がん患者に対する緩和・ 支持治療のあり方に関 する研究	筑波大学医学専門学群 平成 4 年卒 医学博士 緩和医療学	静岡県立総合病院 緩和医療科 (所属施設同じ)	医長
柏木雄次郎	地域連携を通じた在宅 緩和ケアの支援策に関 する調査研究	佐賀医科大学 昭和 60 年卒 医学博士 腫瘍精神医学・緩和医療学	大阪府立成人病センター 脳神経科・脳瘍精神科 (所属施設同じ)	部長
田伏 克惇	集学的癌化学療法に 対する抗癌剤血中濃度 解析支援	和歌山県立医科大学 昭和 46 年卒 医学博士 外科学	独立行政法人国立病院機構 大阪南医療センター 外科 (所属施設同じ)	統括診療部長
金岡 俊雄	泌尿器がん手術後の QOL に影響を及ぼす 因子の研究	京都大学医学部大学院 昭和 62 年卒 医学博士 泌尿器科学	日赤和歌山医療センター 第一泌尿器科 (所属施設同じ)	副部長
加藤 誠	小児がんの子供を持つ 親への心理的サポート に関する研究	千葉大学医学部 昭和 47 年卒 医学博士 医学	成田赤十字病院 脳神経内科 (所属施設同じ)	病院長

龍沢 泰彦	がん患者の家族の心のケアに関する研究	金沢大学大学院 平成3年卒 医学博士 外科学	石川県済生会 金沢病院 外科 (所属施設同じ)	診療部長
高橋 郁雄	進行再発消化器がん患者の治療と病状把握の実態に関する研究	九州大学医学部 昭和63年卒 医学博士 消化器外科固形癌科学療法	松山赤十字病院 第3外科 (所属施設同じ)	部長
野口 和典	肝癌治療における患者・家族の支援に関する研究	久留米大学医学部 昭和53年卒 医学博士 内科学	大牟田市立総合病院 研究研修部 (所属施設同じ)	副院長兼 部長
渡辺 洋一	肺癌患者のQOL向上に対する呼吸器インターベンションおよび種々の在宅療法支援の果たす役割に関する研究	鳥取大学医学部 昭和51年卒 医学博士 呼吸器内科学	岡山赤十字病院 呼吸器内科・緩和ケア科 (所属施設同じ)	部長
井上 賢一	乳癌患者の薬物療法における、サポートに関する研究	埼玉医科大学大学院 昭和63年卒 医学博士 腫瘍内科学	埼玉県立がんセンター 内分泌科 (所属施設同じ)	部長
奥原 秀盛	緩和ケア病棟に入院中の患者の家族支援に関する研究	琉球大学医学部 平成5年卒 保健学修士 看護学	静岡県立大学 看護学部 (所属施設同じ)	准教授
安達 勇	がん医療の継続としての緩和医療外来の在り方の関する研究	新潟大学医学部 昭和43年卒 医学博士 緩和医療学、臨床腫瘍	静岡県立静岡がんセンター 緩和医療科 (所属施設同じ)	部長兼 診療管理監
吉川 栄省	がん患者のQOLを向上させることを目的とした支援療法等のあり方に関する研究	日本医科大学 平成5年卒 医学博士 精神医学	静岡県立静岡がんセンター 精神腫瘍科 (所属施設同じ)	医長
大田洋二郎	がん患者のための口腔ケアに関するWeb版ソフト整備に関する研究	北海道大学歯学部 昭和61年卒 学位なし 歯科・口腔外科	静岡県立静岡がんセンター 歯科・口腔外科 (所属施設同じ)	部長
田沼 明	がん患者における機能障害・能力低下およびそれらに対するリハビリテーションの知識の普及に関する研究	慶應義塾大学 平成8年卒 医学博士 リハビリテーション医学	静岡県立静岡がんセンター リハビリテーション科 (所属施設同じ)	部長
柿川 房子	がん術前後における患者の生活障害と支援モデルに関する研究	立正大学文学部社会学科 昭和56年卒 文学修士 がん看護学・看護管理学	新潟県立看護大学 基礎看護学講座 (所属施設同じ)	教授
石川 睦弓	化学療法を受けるがん患者を支援する情報提供ツールのあり方に関する研究	筑波大学大学院 平成12年卒 カウンセリング修士 がん看護学	静岡県立静岡がんセンター 研究所 患者・家族支援研究部 (所属施設同じ)	部長

吉田 隆子	がん患者の QOL 向上のための小児期からの食育のあり方に関する研究	日本女子大学家政学部 昭和 44 年卒 学位なし 食物栄養学・栄養教育学	日本大学短期大学部 食物栄養学科 (所属施設同じ)	教授
小池真規子	がん患者の QOL 向上に関する心理学的研究	筑波大学大学院 平成 3 年卒 教育学修士 臨床心理学	目白大学 心理カウンセリング学科 (所属施設同じ)	教授
大野ゆうこ	QOL に基づくがん患者支援療法等の分類および効果評価に関する研究	東京大学大学院 昭和 60 年卒 医学博士 医学意思決定(計量医学)	大阪大学大学院 医学系研究科 (所属施設同じ)	教授
青木 和恵	がん患者のより良いセルフコントロールを目的とした専門ケアの提供に関する研究	金沢大学大学院 医学系研究科保健学専攻 平成 15 年卒 保健学修士看護学専攻	静岡県立静岡がんセンター 看護部 (所属施設同じ)	部長
稲野 利美	がん患者の QOL 向上のための栄養・食事相談のあり方に関する研究	共立女子大学家政学部 昭和 61 年卒 学位なし	静岡県立静岡がんセンター 栄養室 (所属施設同じ)	室長
高田 由香	がん患者・家族の QOL 向上を目的とした総合相談や情報提供のあり方に関する研究	日本女子大学文学部 昭和 62 年卒 学士 社会福祉	静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター よろず相談 (所属施設同じ)	主任
北村 有子	WEB 版がんよろず相談の利用状況からみたコンテンツのあり方に関する研究	大阪大学大学院 平成 17 年卒 保健学博士 がん看護学	静岡県立静岡がんセンター 研究所 患者・家族支援研究部 (所属施設同じ)	副主任
大曲 睦恵	こどものケアに関する相談支援のあり方の研究	Mills 大学院 平成 15 年卒 修士 チャイルド・ライフ	静岡県立静岡がんセンター 研究所 看護技術開発研究部 (所属施設同じ)	技師